キャラクター名
梅塚　仁(うめづか　じん)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ウロボロス	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17歳	性別	男
覚醒	生誕	衝動	解放	初期侵食率	45 %
出自	犯罪者の子	経験	UGNへの忠誠	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	2	0	0			2
精神	2	0	0			2
社会	1	0	0			1

HP	60
行動値	6
(非装備時)	6
戦闘移動	11
全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
(※クリスタルシールド)	白兵	4r+1	12	0		※常備化してません

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

思い出の一品：ネックレス	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス：屍人(ﾘﾋﾞｨﾝｸﾞﾃﾞｯﾄﾞ)	P	N		
姫宮由里香	P　純愛	N　偏愛		
親	P　懐旧	N　嫌悪		
ブラッドソード	P　友情	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　2	残り財産P：　0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
異形の刻印	6	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果：最大HP+Lv*5　基侵+3								
原初の黄：虚無の城壁	3	2	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	自身	自動	-	
効果：R間　G値+Lv*3　基侵+3								
崩れずの群れ	1	2	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	-	
効果：ﾀﾞﾒﾛ前ｶﾊﾞｰﾘﾝｸﾞ　1MP1回								
命のカーテン	3	4	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	-	
効果：《崩れずの群れ》1ｼﾅLv回　ｶﾊﾞｰｷｮﾘ+10m								
守護者の巨壁	1	6	ｵｰﾄ	視界	＊	自動	ﾘﾐｯﾄ	
効果：判定直前　対象を自分に変更　1ｼﾅ1回								
原初の紫：氷盾	3	2+1	ｵｰﾄ	至近	自身	自動	-	
効果：ガード時　G値+Lv*5　基侵+4								
雲散霧消	5	4	ｵｰﾄ	至近	範囲(選択)	自動	-	
効果：エフェクトHPD-LV*5　1R1回								
まだらの紐	1	1	ﾒｼﾞｬｰ	視界	※	※	-	
効果：追跡する　必要なら〈RC〉対抗								
鍵いらずの歩み	1	-	ﾒｼﾞｬｰ	至近	自身	-	-	
効果：液状化してすり抜け出来ちゃう								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

＊性格＊
からっとした男子高校生。誰にでもタメロ。軽い、と思われがちだが、結構繊細。人とは浅く、広く付き合っていたいから、近付きすぎる前に自分から離れる。ただ、どんな関係であろうと、チームであれば、守ることに対しては全力になる。それが己の役割だから。

任務およびUGNに対して絶対忠誠を誓っている。誓わされている、という方が実は正しいのだが、誓っている理由の１つに姫宮由里香の存在がある。彼は姫宮由里香に心底憧れ、惚れている。

常にロケットネックレスを着けている。ブラッドソード時代の貰い物だとか。

PC1のことは、友人だと思っているが、ブラッドソード脱退の1件から少々気まずいと感じている(表には出さない)。

「俺は誰に対してもこんな感じなもんでな。悪いな。」

＊経歴＊
両親は仁が小さい頃にオーヴァードの能力に目覚め、その能力を悪用して、詐欺や強盗殺人などを行っていた。オーヴァードであるかどうか以前に屑親であったのは間違いない。後にUGNがその事件に介入解決し、両親は然るべき処分を受け、仁は適性検査を行われ、チルドレンとして育てられることとなる。このとき、UGNに忠誠を誓わされた。CNのアンドロメダという名を貰ったのもこのとき。当時のエージェントがつけたようだが、由来は不明。

犯罪者の子、というのは珍しくはなかったが、それでも時々嫌みを言われていた。そのせいで、心を閉ざしていた時期もあったが、閉ざしているよりも多少付き合いを持っていた方が角はたたないということに気付き、現在のような性格になった。

いつだか見かけた姫宮由里香に一目惚れした。今も変わらない。彼に彼女の話題をふると饒舌になる。